

北通遺跡第8号方形周溝墓出土遺物（一括）

指 定	市
種 別	有形文化財
種 類	考古資料
員 数	38点
指定日	平成4年（1992）2月17日
所在地	富士見市大字水子2003-1 水子貝塚資料館内



第8号方形周溝墓



壺棺、壺



鉄剣



ガラス小玉

【概説】

北通遺跡は、富士見市南部の針ヶ谷地域に位置し、舌状の武蔵野台地崖線部に立地しています。遺跡からは弥生時代後期末～古墳時代前期初頭にかけての住居跡が100軒以上確認され、大規模な弥生集落が存在したことがわかりました。遺跡の南東側は墓域と考えられ、周囲に溝をめぐらせた方形周溝墓が確認されました。昭和61年（1986）に調査した第8号方形周溝墓では、埋葬部から鉄剣・ガラス小玉31個、周溝から大型壺、壺棺、壺、器台、埴が出土しました。鉄剣は全長61cmと大型で、ガラス小玉は穴があいた直径3～5mmのもので首飾りにしたと思われます。被葬者の副葬品と考えられ、埋葬形態を推察することのできる良好な出土状態でした。